

IV 指導の実際

社会科学習指導案

平成 12 年 6 月 28 日 (水)
名護市立三原小学校 3,4 年
名護市立天仁屋小学校 3,4 年
名護市立嘉陽小学校 3,4 年
男子 12 名女子 7 名計 19 名
指 導 者 上原久仁子
森田 茂
崎間 泉

1 単元名 住みよい町づくり

2 単元の目標

市では、地域の人々の健康な生活を保っていくために、人々の願いを生かしながら水資源の確保や新しい水源の開発、ゴミの収集や処理などを計画的に行っていることをつかむ。

ゲーム作りや新聞作り等の活動に取り組む中で、水の確保やゴミの処理についての問題意識を育むとともに、調べたこと、わかったことを発表しあったり、話し合ったりすることで問題の解決を図る。

社会の一員として、水の使い方やゴミを減らす工夫を自分なりに実践しようとする。

3 単元について

(1) 教材観

私たちにとって、水は蛇口をひねればいつでも出るものであり、有限な資源であるという意識や捨てられたゴミがどのように処理され、どんな問題があるか等関心も薄いように思われる。

本単元では、実際に名護市の浄水場や下水処理場、環境センターを見学し、水資源の確保やゴミの処理が組織的・計画的・広域的に行われていることやそれらに携わる人々の工夫や努力についても気づかせたい。また、グループで調べたことやわかったこと等を話し合ったり、新聞や紙芝居等で表現したり、ゲーム遊びを通して各自のイメージを膨らませていきたい。

これらの活動によって、水が有限な資源であることやゴミが大切な資源であること地域規模でのゴミ処理問題解決の必要性を認識させ、自分が社会の一員であることをも自覚させていきたい。さらに、自らの日々の生活を見つめなおし、自分なりにできることは何かを考え、実践できるようにすることが理想である。

(2) 児童観

それぞれの学校での児童の様子は、明朗快活であり、お互いに助け合いながら学校生活を楽しんでいる。また、自然の中で伸び伸びと過ごす様子にはたくましさを感じられる。しかしその反面、小規模校の課題として集団行動の欠如、話し合い活動の経験不足等が考えられ、時間のけじめや、物を大切に作る心、発表する力などに物足りなさを感じる。この点については我々教師側の課題でもあると考える。

集合学習と社会科に関するアンケートの結果は、社会科は好きだと答えた児童は16人、きらいと答えた児童は3人であった。また、集合学習は児童全員が楽しいと感じており、どの児童も意欲的に取り組んでいる。自分たちが調べたことをまとめ発表したり、質問に答えたりしながら学習を進めていく活動に喜びを感じているようである。

そこで本単元では、集合学習の特性をうまく活用し、児童が主体的に活動する場や話し合い活動の場をできるだけ提供し、相互交流、相互思考によって啓発される物の見方や考え方を広げ深めていきたいと考える。それと同時に見る、聞く、話す等の基本的な学習態度をしっかり身につけさせたい。

アンケート結果

質問番号	質問内容	選択肢及び回答(人数)
1	集合学習は楽しいですか。	はい(19名) いいえ(0名)
2	1の理由を教えてください。	三原小の三、四年生だけだと少ないから。(1名) ぎもんと思ったことがわかるから。(1名) 見学する勉強が楽しい。(1名) みんなと勉強したり友だちになったりするから。 (9名) いろんなことがわかるから。(3名)
3	もしどこかで他の小学校のお友だちにあったらあいさつをしますか。	自分から進んでやる(12名) 相手がやったらやる(1名) 無視する(5名) その他わかる人だったらやる(1名)
4	社会科の勉強は好きですか。	はい(15名) いいえ(3名) どちらともいえない(1名)
5	a : 4で「はい」と答えた理由は何ですか。 b : 4で「いいえ」と答えた理由は何ですか。	集合学習ができるから。(5名) 見学に行っているいろいろなことがわかって楽しいから。 (3名) いろいろなことがわかるから。(1名) 紙芝居を使っただけの発表が楽しい。(1名) サイコロゲームが楽しい。(2名) 調べ学習が楽しい。(2名) いろんなことをやるから。(1名) むずかしいから。(3名)

(3) 指導観

本単元では、児童の実態と教材の特性から指導方針として、児童が主体的、能動的に学習に取り組めるように、調査活動等の体験的活動を取り入れたい。また、その成果を発表し、意見交換をするなどの場を通して、学習意欲を高め、自信を持たせる集合学習としたい。さらには、三校の連携を密にとり、個人と集団の関わりから、個性や能力の育成を図るように努めたい。

4 指導計画 (22 時間)

単元名	過程	学習内容及び活動	時数	支援・留意点	学習形態
住みよいまちづくり	つかむ	オリエンテーション 集合学習の基礎 学習の進め方、発表の仕方 レクレーション	1	集学習の意義を理解し、楽しく学習が進められるよう意欲を持たせる。	全習
	広げる	じゃ口はどこにある？ 学校の蛇口調べの活動を通して、水は自分たちの暮らしに欠かせないものであることに気づくとともに水がどこから送られてくるかを理解する。	1	水が多目的に使われてることに気づかせ、関心を持たせる。	分習
		「水のたびマップ」をつくらう 水はつくられる 水道がひかれるまで 市の水道のひろがり 浄水場、ダム、水源林のしくみやはたらきを調べ、水道が引かれるまで大切さに気づく	1	たくさんの水がどこから送られてくるのか疑問を持たせる。	分習
	深める	浄水場についてゲームや紙しばいをつくってまとめよう。 これまで学習してきたことや資料や話し合いで新たに気づいたことをもとにしてまとめる。	1	友だちや、他のグループのよさを認めることができるようにしたい。	全習
		下水しゅり場の見学 下水がよみがえった 下水も再利用できないの？ 下水道をひろげる計画 下水のゆくえを調べ下水処理場の仕組みと働きの大切さに気づくとともに自分たちのくりしと水の再利用について見直す。	2	水を汚しているのは自分たち人間であることに気づかせる。	分習
		下水処理場についてゲームや紙しばいをつくってまとめよう。 これまで学習してきたことや資料や話し合いで新たに気づいたことももとにしてまとめる。	1	友だちや、他のグループのよさを認めることができるようにしたい。	全習
		ごみはどこへ ごみぶくろはどこへ しゅうしゅう車はどう回るの？	1	ごみの出し方、出す場所について調べさせておく。	分習
		せいそう工場をたずねて ごみをへらすには？ ごみが生まれかわる？	1	ごみ処理の仕方、ごみを減らす工夫や努力がされていることに気づかせる。	分習
		ごみについてゲームや紙しばいをつくってまとめよう。 これまで学習してきたことや資料や話し合いで新たに気づいたことをもとにしてまとめる。	1	友だちや、他のグループのよさを認めることができるようにしたい。	全習
		施設(名護市環境センター・浄水場・下水処理場)を訪ねよう 名護市環境センター 浄水場 下水処理場	5	教室での学習の内容を深められるようにしたい。	全習
	まとめる	ゲームや紙しばいをつくってまとめよう。 * 発表の方法を決めよう。 * 役割分担。	1	自分なりに問題や感想などを学習の順に想起できるよう自分らしさを大切にしたいまとめ方ができるようにさせる。	全習
		* ゲームや紙芝居作り	5	グループで協力して、自分の役割をはたせるようにさせる。	全習
		* 発表会・・・《本時》 浄水場グループの発表 下水処理場グループの発表 環境センターグループの発表	1	友だちや、他のグループのよさを認めることができるようにしたい。	全習

5 本時の指導

(1) 小单元名 「学習発表会をしよう」

(2) ねらい

各グループで協力し、これまでの学習、見学でわかったことや考えたことをわかりやすく発表することができる。

各グループの発表を聞いて、リサイクル運動や環境問題に関心を持つことができる。

自分の意見や考えを持ち、みんなの前で発表することができる。

(3) 展開

学習の流れ	学 習 活 動	教師の支援（指導上の留意点）	評 価
つ か む	1、本時のめあての確認	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを確認させる。 (T 1) ・発表の仕方、聞く時の視点などを具体的に話す (T 2 (発表する時のマナー)) <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢よく (立つ位置、立ち方) ・声の大きさ ・わかりやすく (聞く時のマナー) ・発表者に目をむけて ・疑問、感想をメモしながら聞く ・静かに聞く 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあてがわかったか。
広 げ る	2、学習発表会をしよう 歌声 「あの青い空のように」 (1)浄水場グループの発表 ・紙しばい (2)下水処理場グループの発表 ・さいころゲーム (3)環境センターグループの発表 ・わたしたちにできること …… リサイクルについて	<ul style="list-style-type: none"> ・発表がスムーズにいくように指導助言する。 ・児童司会への適切なアドバイスをする。 ・活発に質問、意見、感想がでるよう援助する。 ・発表用移動黒板、磁石等の準備、確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢、声の大きさや調子に気をつけて、聞き手にわかりやすいように発表することができたか。 ・静かに聞き、意見や感想を持つことができたか。

学習の流れ	学 習 活 動	教師の支援(指導上の留意点)	評 価
広げる	各グループの発表後、質問、意見、感想をいう	<ul style="list-style-type: none"> 各グループの発表後、質疑応答させる。答えに戸惑った場合は援助する。 各グループの発表後はよいところを指摘し称賛する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各グループの発表から各施設のしくみやいろいろな工夫について知ることができたか。
深める	3、学習の反省をする <ul style="list-style-type: none"> 反省カードへの記入 意見、感想を発表する 	<ul style="list-style-type: none"> 反省カードの配布(T3) 反省カードの記入に手間どっている児童への配慮をす 	<ul style="list-style-type: none"> 反省カードへの記入ができたか。 思ったことや気づいたことを発表することができたか。 水の大切さ、リサイクルすることの大切さに気づくことができたか、
まとめる	4、学習のまとめをする	<ul style="list-style-type: none"> めあてをもとに今日の発表会の意義について話す。(T3) 各グループのよかった点を称賛し、次の学習への意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 今、私たちにできることは何かを考えることができたか。 これからは資源を大切にしよう、リサイクルしようという意欲を持つことができたか。

(4) 評価

- 各グループで協力し、これまでの学習、見学でわかったことや考えたことをわかりやすく発表することができたか。
- 各グループの発表を聞いて、リサイクル運動や環境問題に関心を持つことができたか。
- 自分の意見や考えを持ち、みんなの前で発表することができたか。

V 成果と課題、参考文献

《成果》

- ・子どもたちはいろいろな発表の仕方を学ぶことができた。(ペープサート、新聞、紙いばい等)
- ・授業にはりがでてきて、意見や感想を進んで発表するようになってきた。
- ・主体的に調べ学習したり、調べたことをまとめることが徐々にできるようになってきた。
- ・三校の子どもたちの親睦を深めることができた。
- ・社会の一員としての自覚がめばえつつある。

《課題》

- ・基本的学習態度をしっかりと身につけさせたい。
- ・小規模校のよさを生かした学習計画の工夫。
- ・全習と分習の持ち方の工夫。
- ・社会科の集合学習を行う際の単元の導入(オリエンテーション)の持ち方。
- ・三校担任が集まったの教材研究の時間の確保。

《参考文献》

- ・学習指導要領解説社会科編
- ・社会 教師用指導書
- ・沖縄県へき地教育研究大会実践報告書 具志川村立清水小学校
- ・沖縄県へき地教育研究大会研究報告書 粟国村立粟国小学校



さいころゲームをしているところ